

# 令和5年度 財政状況資料集

## 総括表（都道府県）

都道府県名	鹿児島県		職員の状況（※7）				区分		令和5年度(千円)	令和4年度(千円)	区分		令和5年度(千円・%)	令和4年度(千円・%)
			区分	定数	1人あたり平均 給料月額(百円)		歳入総額	歳入歳出差引	実質収支	積立金	健全化判断比率	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率
グループ	D		知事	1	12,400		歳入総額	856,075,115	921,475,579	実質収支比率	3.4	4.4		
人口	令和2年国調(人)	1,588,256	副知事	2	9,700		翌年度に繰越すべき財源	28,978,216	33,252,489	標準財政規模	483,573,931	484,250,625		
	平成27年国調(人)	1,648,177	教育長	1	7,700		実質収支	16,394,446	21,087,160	財政力指数	0.34012	0.33868		
	増減率(%)	-3.6	議会議長	1	9,700		単年度収支	-4,692,714	5,327,623	公債費負担比率	18.8	19.3		
				議会副議長	1	8,700		歳入一般財源等	599,016,722	609,816,022	資金不足比率(※4)			
住民基本台帳人口 (※6)	令06.01.01(人)	1,576,361	議会議員	49	7,800		積立金	11,052,336	9,271,800	健全化判断比率				
	うち日本人(人)	1,560,305	区分	職員数 (人)	給料月額 (百円)	1人あたり平均 給料月額(百円)	積立金取崩し額	11,042,273	9,269,857	実質赤字比率	-	-		
	令05.01.01(人)	1,591,699	一般職員	6,655	20,996,525	3,155	実質単年度収支	-4,682,151	5,329,566	連結実質赤字比率	-	-		
	うち日本人(人)	1,577,975	うち消防職員	-	-	-	基準財政収入額	158,071,319	157,125,643	実質公債費比率	11.4	11.4		
	増減率(%)	-1.0	うち技能労務職員	182	570,206	3,133	基準財政需要額	444,267,972	439,923,037	将来負担比率	196.2	197.8		
面積(km <sup>2</sup> )	9,186		警察官	3,012	9,526,956	3,163	標準財政収入額等	194,903,322	194,634,292					
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	172		教育公務員	14,111	52,630,628	3,730	經常経費充当一般財源等	466,018,162	472,634,882					
世帯数(世帯)	728,179		臨時職員	1,837	4,719,253	2,569	歳入一般財源等	599,016,722	609,816,022					
			合計	25,615	87,873,362	3,431	地方債現在高	1,518,702,368	1,555,293,035					
			ラスバイレス指数	96.2			うち公的資金	336,687,475	365,179,912					
							地方債現在高(臨時財政対策債除き)	1,073,483,998	1,078,436,110					
							債務負担行為額(支出予定額)	50,987,495	49,800,457					
							収益事業収入	4,197,340	4,128,143					
							定額運用基金	6,000,000	6,000,000					
							土地開発基金	6,000,000	6,000,000					
							積立金 現在高	81,854,973	75,238,774					
							財政調整基金	17,572,049	17,561,986					
							減債基金	7,444,862	7,440,656					
							その他特定目的基金							

一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法適)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧 項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 項番	団体名	(※3)
(1)	一般会計	(9)	国民健康保険事業特別会計	(10)	鹿児島県工業用水道事業特別会計	(12)	鹿児島県港湾整備事業特別会計			(13)	(公財)鹿児島県文化振興財団	
(2)	母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計			(11)	鹿児島県病院事業特別会計					(14)	肥薩おれんじ鉄道㈱	
(3)	中小企業支援資金貸付事業特別会計									(15)	(公社)鹿児島県森林整備公社	○
(4)	就農支援資金貸付事業特別会計									(16)	(公財)万之瀬川水源基金	
(5)	公共土木用地取得先行事業等特別会計									(17)	(公財)鹿児島県林業担い手育成基金	
(6)	林業・木材産業改善資金貸付事業特別会計									(18)	(公財)鹿児島県環境整備公社	
(7)	沿岸漁業改善資金貸付事業特別会計									(19)	(一財)鹿児島県環境技術協会	
(8)	公債管理特別会計									(20)	(公財)屋久島環境文化財団	
										(21)	(公財)かごしまみどりの基金	
										(22)	(公財)鹿児島県民総合保健センター	

(注釈) ※1：經常収支比率の( )内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。  
 ※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。  
 ※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。  
 ※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。  
 ※5：個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(\*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。  
 ※6：人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※7：職員の状況については、調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況（都道府県）

歳入の状況（単位 千円・%）				道府県税の状況（単位 千円・%）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	204,841,000	22.7	157,027,583	32.8	普通税	204,585,189	99.9	1,119,728
地方譲与税	33,433,571	3.7	33,433,571	7.0	法定普通税	202,328,158	98.8	1,119,728
地方揮発油譲与税	3,020,360	0.3	3,020,360	0.6	道府県民税	50,572,663	24.7	1,119,728
特別とん譲与税	-	-	-	-	個人均等割	1,491,871	0.7	370,803
石油ガス譲与税	83,445	0.0	83,445	0.0	所得割	43,436,281	21.2	-
自動車重量譲与税	193,559	0.0	193,559	0.0	法人均等割	1,775,350	0.9	84,226
航空機燃料譲与税	55,402	0.0	55,402	0.0	法人税割	1,667,785	0.8	664,699
森林環境譲与税	130,940	0.0	130,940	0.0	法子割	78,862	0.0	-
特別法人事業譲与税	29,949,865	3.3	29,949,865	6.2	配当割	961,099	0.5	-
市町村たばこ税都道府県交付金	-	-	-	-	株式等譲渡所得割	1,161,415	0.6	-
地方特例交付金等	1,084,689	0.1	1,084,689	0.2	事業税	35,654,893	17.4	-
地方特例交付金	1,084,689	0.1	1,084,689	0.2	個人分	1,503,588	0.7	-
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金	-	-	-	-	法人分	34,151,305	16.7	-
地方交付税	292,104,281	32.4	285,881,023	59.7	地方消費税	78,751,426	38.4	-
普通交付税	285,881,023	31.7	285,881,023	59.7	不動産取得税	3,934,833	1.9	-
特別交付税	6,216,369	0.7	-	-	道府県たばこ税	1,932,369	0.9	-
震災復興特別交付税	6,889	0.0	-	-	ゴルフ場利用税	407,965	0.2	-
(一般財源計)	531,463,541	59.0	477,426,866	99.6	軽油引取税	11,943,959	5.8	-
交通安全対策特別交付金	379,316	0.0	379,316	0.1	自動車税	19,118,347	9.3	-
分担金・負担金	5,701,653	0.6	-	-	鉱区税	11,703	0.0	-
使用料	7,386,986	0.8	856,108	0.2	固定資産税特例	-	-	-
手数料	3,650,260	0.4	-	-	法定外普通税	2,257,031	1.1	-
国庫支出金	183,748,779	20.4	-	-	目的税	207,306	0.1	-
国有提供交付金	-	-	-	-	法定目的税	22,927	0.0	-
財産収入	3,140,256	0.3	26,887	0.0	狩猟税	22,927	0.0	-
寄附金	184,330	0.0	-	-	法定外目的税	184,379	0.1	-
繰入金	26,128,185	2.9	-	-	旧法による税	48,505	0.0	-
繰越金	54,339,649	6.0	-	-	合計	204,841,000	100.0	1,119,728
諸収入	14,015,486	1.6	547,250	0.1				
地方債	71,309,336	7.9	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	2,789,586	0.3	-	-				
歳入合計	901,447,777	100.0	479,236,427	100.0				

区分		令和5年度		令和4年度	
徴収率	現計	99.5	99.1	99.6	99.1
(%)	年計	99.2	97.8	99.2	97.8
	事業税	99.8	99.7	99.9	99.7
国民健康保険	実質収支	4,292,252	2,913,234		
事業会計の状況	再差引収支	4,292,252	2,913,234		

歳出の状況（単位 千円・%）					
目的別歳出の状況（単位 千円・%）					
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	1,375,677	0.2	1,194	1,375,516	
総務費	77,383,348	9.0	2,941,083	65,282,099	
民生費	149,962,454	17.5	2,154,635	132,952,551	
衛生費	41,454,380	4.8	1,897,093	17,008,536	
労働費	1,730,789	0.2	40,930	762,002	
農林水産業費	76,739,090	9.0	50,951,987	19,211,360	
商工費	23,163,374	2.7	3,841,206	10,783,036	
土木費	103,367,368	12.1	92,843,789	12,590,387	
警察費	35,777,418	4.2	3,162,375	32,004,350	
消防費	-	-	-	-	
教育費	177,256,033	20.7	4,587,581	127,506,575	
災害復旧費	8,691,947	1.0	-	314,042	
公債費	114,920,958	13.4	-	112,834,855	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
利子割交付金	52,818	0.0	-	52,818	
配当割交付金	615,016	0.1	-	615,016	
株式等譲渡所得割交付金	748,005	0.1	-	748,005	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	
地方消費税交付金	39,476,773	4.6	-	39,476,773	
ゴルフ場利用税交付金	281,229	0.0	-	281,229	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	
自動車取得税交付金	44,152	0.0	-	44,152	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	
自動車税環境性能割交付金	493,012	0.1	-	493,012	
法人事業税交付金	2,541,274	0.3	-	2,541,274	
特別区財政調整交付金	-	-	-	-	
歳出合計	856,075,115	100.0	162,421,873	576,877,588	

性質別歳出の状況（単位 千円・%）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	358,236,902	41.8	305,353,420	304,890,775	63.3
人件費	215,469,478	25.2	180,206,734	180,048,689	37.4
うち職員給	168,036,534	19.6	134,119,891	134,112,879	27.8
扶助費	28,101,405	3.3	12,566,770	12,447,441	2.6
公債費	114,666,019	13.4	112,579,916	112,394,645	23.3
元利償還金	114,666,019	13.4	112,579,916	112,394,645	23.3
うち元金	107,900,003	12.6	105,813,903	105,645,208	21.9
うち利子	6,766,016	0.8	6,766,013	6,749,437	1.4
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	326,724,393	38.2	256,659,375	161,127,387	33.4
物件費	32,613,968	3.8	19,886,567	17,986,564	3.7
維持補修費	4,741,051	0.6	4,110,239	4,109,803	0.9
補助費等	242,908,361	28.4	191,436,269	127,969,109	26.5
繰出金	11,294,572	1.3	11,285,125	10,978,462	2.3
積立金	32,757,809	3.8	29,783,861	-	-
投資及び出資金	545	0.0	545	-	-
貸付金	2,408,087	0.3	156,769	83,449	0.0
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	171,113,820	20.0	14,864,793	-	-
うち人件費	3,952,725	0.5	654,534	-	-
普通建設事業費	162,421,873	19.0	14,550,751	-	-
うち補助	113,820,032	13.3	3,620,768	-	-
うち単独	35,095,148	4.1	10,054,288	-	-
災害復旧事業費	8,691,947	1.0	314,042	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	856,075,115	100.0	576,877,588	-	-

(注釈)  
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（都道府県）

令和5年度 鹿児島県

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	936,018	891,600	44,417	16,345	26,263	1,664,746	
2 母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計	346	218	128	-	10	197	
3 中小企業支援資金貸付事業特別会計	60	57	3	-	4	796	
4 就農支援資金貸付事業特別会計	50	31	19	-	0	28	
5 公共土木用地取得先行事業等特別会計	91	91	0	0	-	14	
6 林業・木材産業改善資金貸付事業特別会計	165	0	164	-	0	-	
7 沿岸漁業改善資金貸付事業特別会計	655	63	592	-	0	-	
8 公債管理特別会計	203,502	203,453	49	49	136,879	-	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							

### (3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

令和5年度

鹿児島県

人口	1,576,361人(R6.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	1,560,305人(R6.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	9,186.18km <sup>2</sup>	実質公債費比率	11.4%
歳入総額	901,447,777千円	将来負担比率	196.2%
歳出総額	856,075,115千円	グループ	R01 D R02 D R03 D
実質収支	16,394,446千円	(年度毎)	R04 D R05 D
標準財政規模	483,573,931千円		
地方債現在高	1,518,702,368千円		

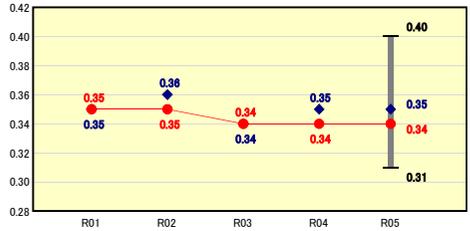


※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 [ Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 ]  
 ※ 「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。  
 ※ 「定員管理の状況」の「人口10万人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイルズ指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

#### 財政力

財政力指数 [0.34]

グループ内順位 8/15 都道府県平均 0.49

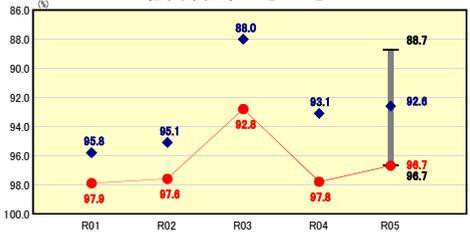


**財政力指数の分析欄**  
 令和5年度は前年度と同程度となり、グループ内平均を0.01ポイント下回る0.34となっている。  
 本県は、高齢化が進行するとともに、外海離島や半島を有しており、多くの県有施設等を維持する必要があることから、財政需要が増大しており、依然として予算を許さない財政状況にある。  
 引き続き、持続可能な行政財政構造を構築するため、行政改革に取り組んでいるところである。

#### 財政構造の弾力性

経常収支比率 [96.7%]

グループ内順位 15/15 都道府県平均 92.5

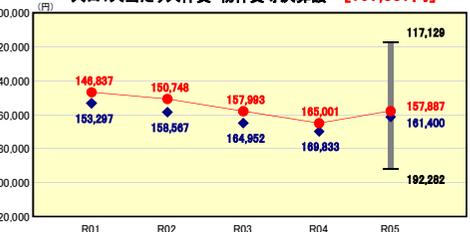


**経常収支比率の分析欄**  
 前年度より1.1ポイント低下したものの、グループ内で最も高い96.7%となっている。  
 令和5年度は、普通交付税とその振替である臨時財政対策債の合計額が減ったことなどにより、分母である歳入が減少した一方で、職員の定年年齢の段階的な引上げに伴う退職手当の減などにより人件費が減少したことや、過去に発行した県債の償還の進行等により公債費が減少したことなどにより、分子である歳出が減少しており、分子である歳出の減が分母である歳入の減を上回ったことにより低下したものである。  
 普通建設事業費の水準等を適切に管理することにより公債費を適正な規模で管理するとともに、人件費については、適正な給与水準を維持しつつ業務量等に応じたメリハリのある適正な定員管理を行うことにより、地方公務員の定年引上げに伴う影響にも十分に留意しながら適正な規模を確保するなど財政構造の改善を図っていくこととしている。

#### 人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [157,887円]

グループ内順位 5/15 都道府県平均 116,997

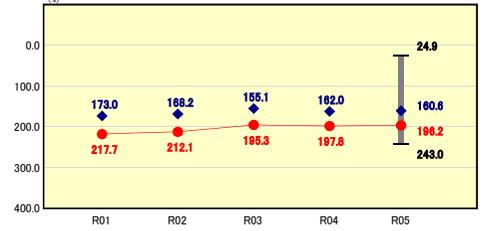


**人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄**  
 前年度より7,114円減少し、グループ内平均を下回る157,887円となっている。  
 令和5年度は、分母である人口が減少している一方で、新型コロナウイルス感染症対策に要する経費の減などにより物件費が減少し、分子である人件費・物件費等の減が分母である人口の減を上回ったことにより人口1人当たりの人件費・物件費等決算額は前年度より減となっている。  
 人件費については、適正な給与水準を維持しつつ業務量等に応じたメリハリのある適正な定員管理を行うことにより、地方公務員の定年引上げに伴う影響にも十分に留意しながら適正な規模を確保するなど持続可能な財政構造の構築を進める。

#### 将来負担の状況

将来負担比率 [196.2%]

グループ内順位 10/15 都道府県平均 148.7

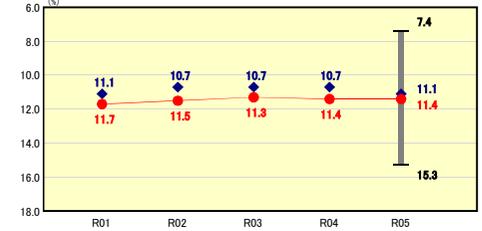


**将来負担比率の分析欄**  
 前年度より1.6ポイント低下したものの、グループ内平均を上回る196.2%となっている。  
 令和5年度は、一般会計の地方債現在高の減等により、低下したものである。  
 また、標準財政規模に対する県債残高の規模がグループ内の他団体を引き続き上回っていることから、将来負担比率がグループ内平均を上回る状況が続いている。  
 引き続き、行政運営指針に基づき、臨時財政対策債を除く本県が独自に発行する県債残高について、1.1兆円程度の残高で推移するよう管理することとしている。

#### 公債費負担の状況

実質公債費比率 [11.4%]

グループ内順位 8/15 都道府県平均 10.1

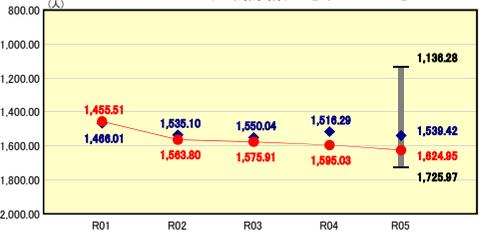


**実質公債費比率の分析欄**  
 前年度と同程度となり、グループ内平均を上回る11.4%となっている。  
 令和5年度は、過去3か年の平均が前年度と同程度となる一方で、標準財政規模に対する元利償還金等の額がグループ内の他団体を引き続き上回っていることから、実質公債費比率は引き続きグループ内平均を上回る状況が続いている。  
 引き続き、普通建設事業費の水準等を適切に管理することにより公債費を適正な規模で管理することとしている。

#### 定員管理の状況

人口10万人当たり職員数 [1,624.95人]

グループ内順位 12/15 都道府県平均 1,086.47

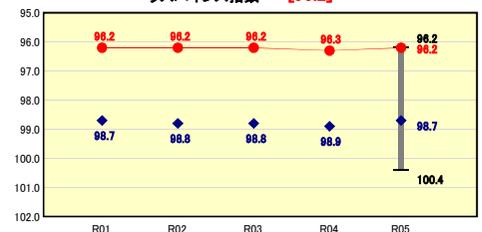


**人口10万人当たり職員数の分析欄**  
 前年度より29.92人増加し、グループ内平均を上回る1,624.95人となっている。  
 これは、新たな行政需要にも対応した簡素で効率的な組織機構の整備や業務量等に応じたメリハリのある適正な定員管理を行うこととしている。

#### 給与水準 (国との比較)

ラスパイルズ指数 [96.2]

グループ内順位 1/15 都道府県平均 99.6



**ラスパイルズ指数の分析欄**  
 ラスパイルズ指数は96.2となっており、グループ内で最も低くなっている。  
 これは、職務給の徹底などの取組によるものである。  
 今後とも、給与制度の適切な運用に努めることとしている。

# (4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

令和5年度

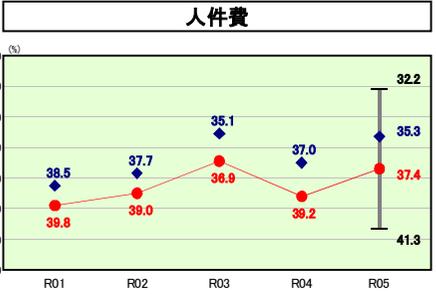
鹿児島県

## 経常収支比率の分析

人	1,576,361	人(R6.1.1現在)	実	-	%			
うち日本人	1,560,305	人(R6.1.1現在)	結	-	%			
面積	9,186.18	km <sup>2</sup>	実	11.4	%			
歳入総額	901,447,777	千円	得	196.2	%			
歳出総額	856,075,115	千円	来					
実収支	16,394,446	千円	グ					
標準財政規模	483,573,931	千円	ル					
地方債現在高	1,518,702,368	千円	ー					
			組					
			(					
			年					
			度					
			毎					
			)					
			R01	D	R02	D	R03	D
			R04	D	R05	D		

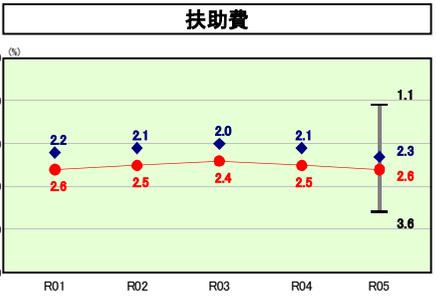


※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 [ Aグループ 1,000以上、Bグループ 0.500以上1,000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。



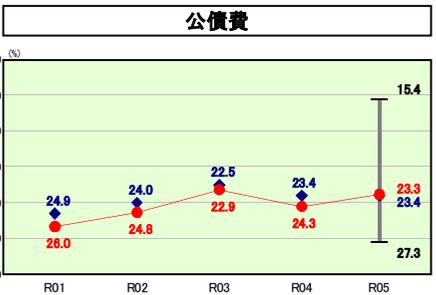
#### 人件費の分析欄

人件費に係る経常収支比率は、前年度より1.8ポイント低下したものの、グループ内平均を上回る37.4%となっている。  
 これは、普通交付税とその振替である臨時財政対策債の合計額が減ったことなど、毎年度経常的に収入される一般財源等が減少した一方で、職員の定年年齢の段階的な引上げに伴う退職手当の減などにより人件費が減少したことにより、前年度と比較し低下したものである。  
 今後とも、適正な給与水準を維持しつつ業務量等に応じたメリハリのある適正な定員管理を行うことなどにより、地方公務員の定年引上げに伴う影響にも十分に留意しながら、適正な規模を確保することとしている。



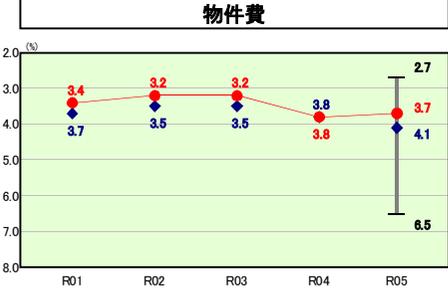
#### 扶助費の分析欄

扶助費に係る経常収支比率は、前年度より0.1ポイント上昇し、グループ内平均を上回る2.6%となっている。  
 これは、水俣病関連の支出(水俣病総合対策事業(R5事業費:37.3億円))があることなどにより、グループ内平均を上回っているものである。



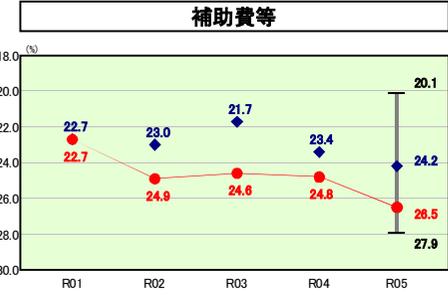
#### 公債費の分析欄

公債費に係る経常収支比率は、前年度より1.0ポイント低下し、グループ内平均を下回る23.3%となっている。  
 これは、普通交付税とその振替である臨時財政対策債の合計額が減ったことなど、毎年度経常的に収入される一般財源等が減少したものの、市場公債以外の償還分が、過去に発行した県債の償還の進行等により減となったことにより、前年度と比較し低下したものである。  
 引き続き、普通建設事業費の水準等を適切に管理することにより公債費を適正な規模で管理することとしている。



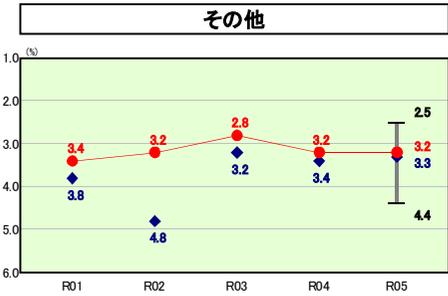
#### 物件費の分析欄

物件費に係る経常収支比率は、前年度より0.1ポイント低下し、グループ内平均を下回る3.7%となっている。  
 これは、普通交付税とその振替である臨時財政対策債の合計額が減ったことなど、毎年度経常的に収入される一般財源等が減少したものの、新型コロナウイルス感染症対策に要する経費の減などにより物件費が減少したことによるものである。  
 今後とも、県民福祉の向上や県勢の発展に資する事業への重点的な予算配分などメリハリをつけた見直しを行うことにより、適正な規模で管理する。



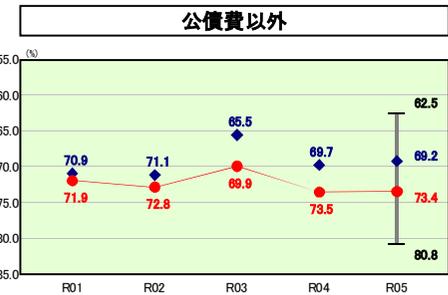
#### 補助費等の分析欄

補助費等に係る経常収支比率は、前年度より1.7ポイント上昇し、グループ内平均を上回る26.5%となっている。  
 これは、教育分野の事業への基金充当額が減少したことに加え、普通交付税とその振替である臨時財政対策債の合計額が減ったことなど、毎年度経常的に収入される一般財源等が減少したことによるものである。  
 今後とも、県民福祉の向上や県勢の発展に資する事業への重点的な予算配分などメリハリをつけた見直しを行うことにより、適正な規模で管理する。



#### その他の分析欄

その他(維持補修費、貸付金及び繰出金)は、前年度と同程度となり、グループ内平均を下回る3.2%となっている。  
 これは、普通交付税とその振替である臨時財政対策債の合計額が減ったことなど、毎年度経常的に収入される一般財源等が減少したものの、維持補修費及び貸付金が減少したことにより、前年度と同程度となったものである。  
 今後とも、県民福祉の向上や県勢の発展に資する事業への重点的な予算配分などメリハリをつけた見直しを行うことにより、適正な規模で管理する。



#### 公債費以外の分析欄

公債費以外に係る経常収支比率は、グループ内平均を上回る73.4%となっている。  
 これは、人件費の減などにより、前年度より0.1%低下したものの、人件費や補助費等に係る経常収支比率がグループ内平均を引き続き上回っていることなどによるものである。  
 今後とも、県民福祉の向上や県勢の発展に資する事業への重点的な予算配分などメリハリをつけた見直しを行うことにより、適正な規模で管理する。

## (4)-2 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

令和5年度

鹿児島県

### 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



### 人件費及び人件費に準ずる費用

項目	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
人件費	215,469,478	136,688	131,703	3.8
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	2,497,802	1,585	694	128.4
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	1,086	1	4	▲75.0
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	3,952,725	2,507	2,528	▲0.8
▲退職金	▲7,890,957	▲5,006	▲6,417	▲22.0
合計	214,030,134	135,775	128,512	5.7

### 参考

項目	当該団体	グループ内平均	対比(差引)
人口100,000人当たり職員数(人)	1,624.95	1,539.42	85.53
ラスバイレス指数	96.2	98.7	▲2.5

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

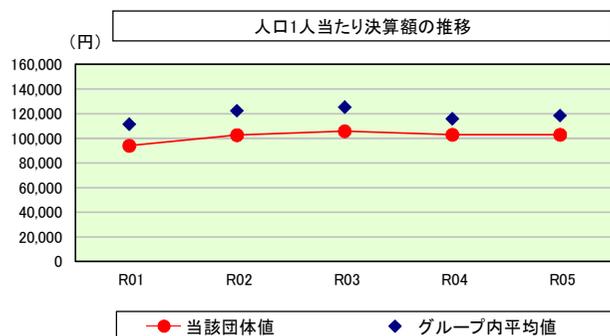
### 公債費及び公債費に準ずる費用の分析



### 公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

項目	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	79,608,471	50,501	68,216	▲26.0
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	6	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還に相当するもの (年度割相当額)	31,759,377	20,147	6,885	192.6
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	515,967	327	1,850	▲82.3
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	-	-	124	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	1,382,753	877	519	69.0
一時借入金金利 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	8	-
▲特定財源の額	▲2,086,103	▲1,323	▲2,187	▲39.5
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲64,183,296	▲40,716	▲45,425	▲10.4
合計	46,997,169	29,814	29,997	▲0.6

### (参考) 普通建設事業費の分析



### 普通建設事業費

年度	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額			
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	グループ内平均 (円)	増減率 (%) (B)
R01	153,331,269	94,060	8.4	111,577	5.7
	うち単独分	40,453,139	24,816	0.3	26,257
R02	165,986,059	102,597	9.1	122,371	9.7
	うち単独分	37,566,278	23,220	▲6.4	28,038
R03	169,910,511	105,836	3.2	125,393	2.5
	うち単独分	36,561,071	22,774	▲1.9	28,054
R04	163,908,345	102,977	▲2.7	115,991	▲7.5
	うち単独分	32,928,392	20,688	▲9.2	28,546
R05	162,421,873	103,036	0.1	118,517	2.2
	うち単独分	35,095,148	22,263	7.6	30,926
過去5年間平均	163,111,611	101,701	3.6	118,770	2.5
	うち単独分	36,520,806	22,752	▲1.9	28,364

# (5) 都道府県性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

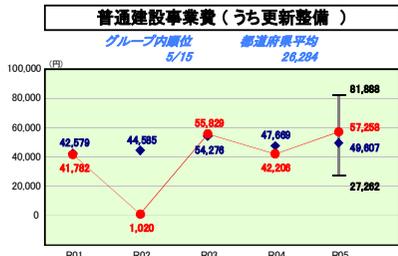
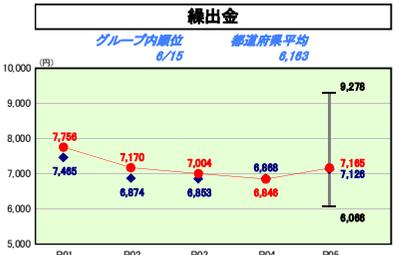
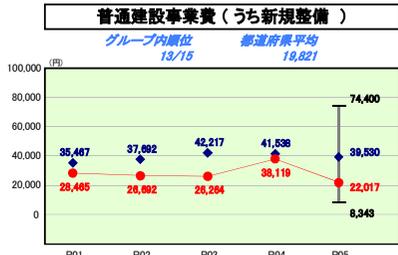
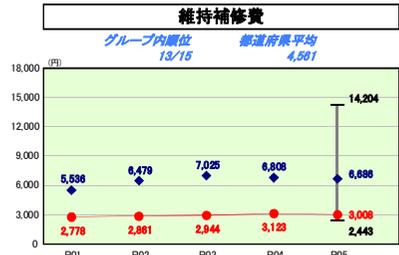
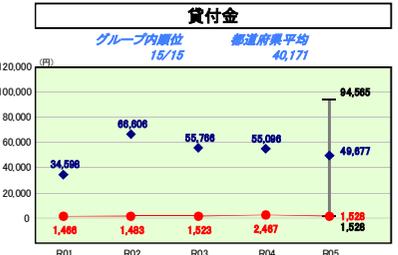
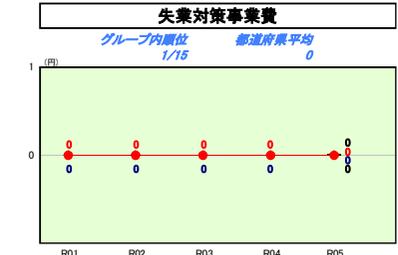
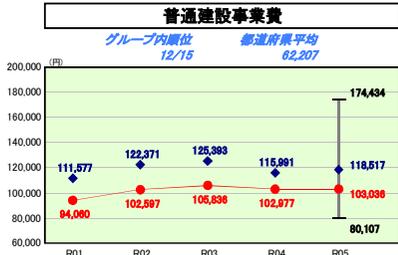
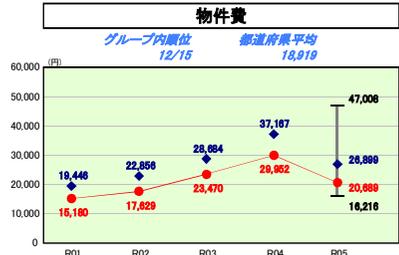
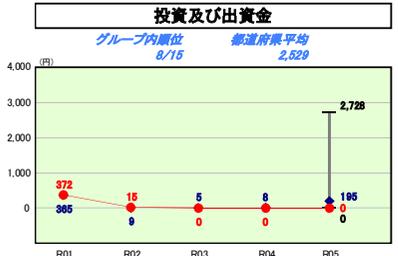
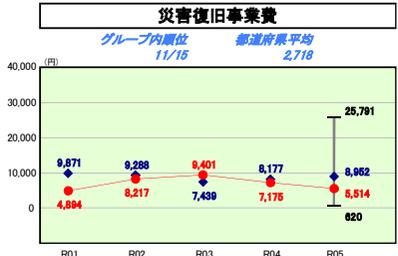
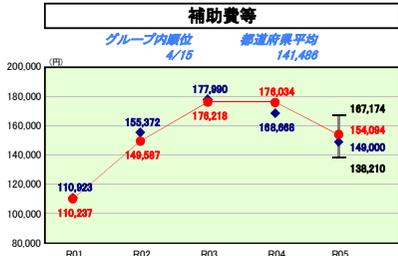
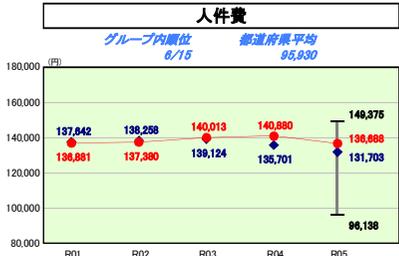
令和5年度

鹿児島県

人口	1,576,361 人(06.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	1,560,305 人(06.1.1現在)	運輸実質赤字比率	-	%
面積	9,196.18 km <sup>2</sup>	実質公債費比率	11.4	%
農産物産出総額	901,447,777 千円	将来負担比率	196.2	%
農産物出荷総額	856,075,115 千円	グループ	R01 D R02 D R03 D	
実収支	16,394,446 千円	(年度毎)	R04 D R05 D	
標準財政規模	483,573,931 千円			
地方債現在高	1,518,702,368 千円			



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 [ Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 ]  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



#### 性質別歳出の分析

- 歳出決算総額は、住民一人当たり543.070円となっている。
- 人件費は、住民一人当たり136,888円とグループ内平均を上回っている。前年度に比べ住民一人当たり4,192円減少しているが、これは、職員の定年年齢の段階的な引上げに伴う退職手当の減などによるものである。
- 物件費は、住民一人当たり20,689円とグループ内平均を下回っている。前年度に比べ住民一人当たり9,263円減少しているが、これは、新型コロナウイルス感染症対策に要する経費が減少したことなどによるものである。
- 補助費等は、住民一人当たり154,044円とグループ内平均を上回っている。前年度に比べ住民一人当たり21,940円減少しているが、これは、新型コロナウイルス感染症対策に要する経費が減少したことなどによるものである。
- 災害復旧事業費は、住民一人当たり5,514円とグループ内平均を下回っている。前年度に比べ住民一人当たり1,661円減少しているが、これは、前年度からの繰越額が令和4年度に比べ小さかったことによるものである。
- 積立金は、住民一人当たり20,781円とグループ内平均を上回っている。前年度に比べ住民一人当たり9,819円増加しているが、これは、退職手当基金や財政調整積立金、安心・安全ふるさと創生基金、鹿児島県公立学校情報機器整備基金への積立金が増加したことによるものである。

# (6) 都道府県目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和5年度

鹿児島県

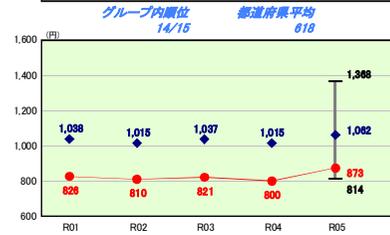
人口	1,576,361人(06.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	1,580,305人(06.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	9,186.18km <sup>2</sup>	実質公債費比率	11.4%
農入総額	901,447,777千円	将来負担比率	196.2%
農出総額	856,075,115千円	グループ	R01 D R02 D R03 D
実収支	16,394,446千円	(年度毎)	R04 D R05 D
標準財政規模	483,573,931千円		
地方債現在高	1,518,702,368千円		



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。  
 [ Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 ]

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。

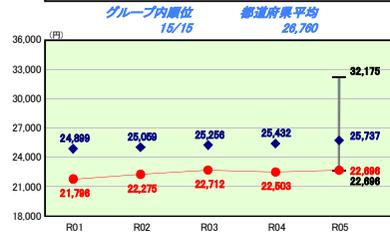
**議会費**



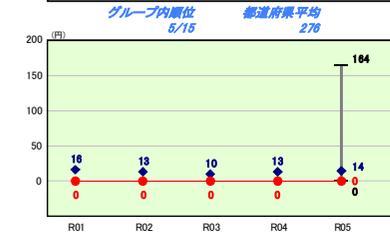
**労働費**



**警察費**



**諸支出金**



**総務費**



**農林水産業費**



**教育費**



**前年度繰上充用金**



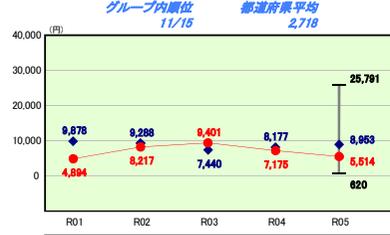
**民生費**



**商工費**



**災害復旧費**



**衛生費**



**土木費**



**公債費**



**目的別歳出の分析**

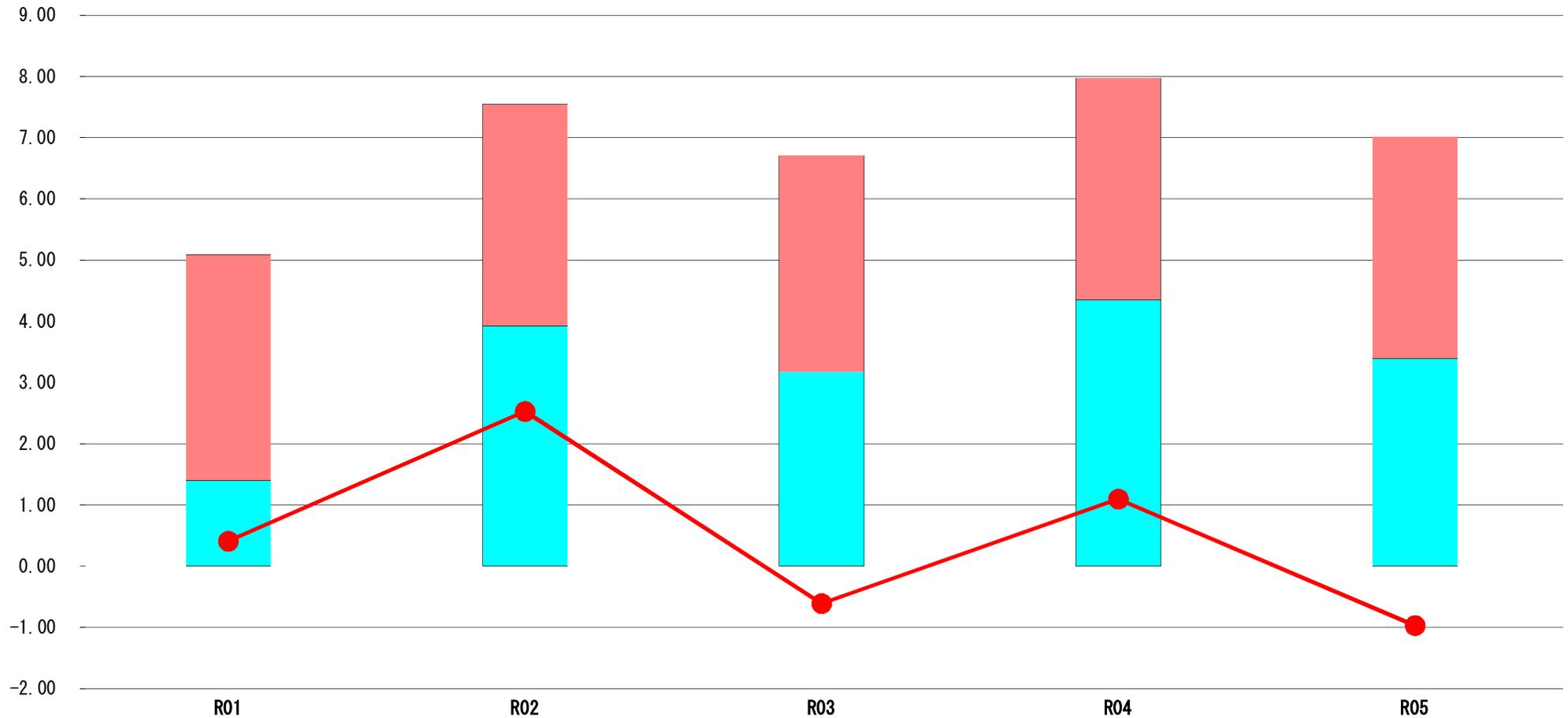
- 歳出決算総額は、住民一人当たり543,070円となっている。
- 総務費は、住民一人当たり49,090円とグループ内平均を上回っている。前年度より住民一人当たり11,173円増加しているが、これは、退職手当基金や財政調整積立基金への積立金のほか、「燃ゆる感動がこしま国体・がこしま大会」開催準備事業やLPガス使用世帯等支援事業が増となったことなどによるものである。
- 衛生費は、住民一人当たり26,298円とグループ内平均を下回っている。前年度より住民一人当たり25,646円減少しているが、これは、新型コロナウイルス感染症重点医療機関等体制整備事業や新型コロナウイルス感染症治療費施設確保事業の減などによるものである。
- 商工費は、住民一人当たり14,694円とグループ内で最も低くなっている。前年度より住民一人当たり12,863円減少しているが、これは、鹿児島GoToラベル推進事業や、新型コロナウイルス感染症対策時短要請協力金給付事業が減となったことなどによるものである。
- 教育費は、住民一人当たり112,446円とグループ内平均を上回っている。前年度より住民一人当たり5,812円減少しているが、これは、職員の定年年齢の段階的な引上げに伴う退職手当の減や、令和4年度をもって終了した鹿児島県南特別支援学校の整備の減があったことなどによるものである。
- 災害復旧費は、住民一人当たり5,514円とグループ内平均を下回っている。前年度より1,661円減少しているが、これは、前年度からの繰越額が令和4年度に比べ小さかったことなどによるものである。

# (7) 実質収支比率等に係る経年分析（都道府県）

令和5年度

鹿児島県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	R01	R02	R03	R04	R05
 財政調整基金残高		3.69	3.63	3.54	3.63	3.63
 実質収支額		1.40	3.92	3.17	4.35	3.39
 実質単年度収支		0.41	2.53	▲ 0.61	1.10	▲ 0.97

## 分析欄

財政調整基金残高は、歳入・歳出両面にわたる徹底した行財政改革の取組により、平成23年度以降財源不足が生じていないため、近年、同水準で推移している。

また、行財政運営指針に基づく歳入確保や徹底した事務の効率化等により実質収支は黒字となっている。実質収支から前年度の実質収支を差し引くなどした実質単年度収支は赤字となっている。

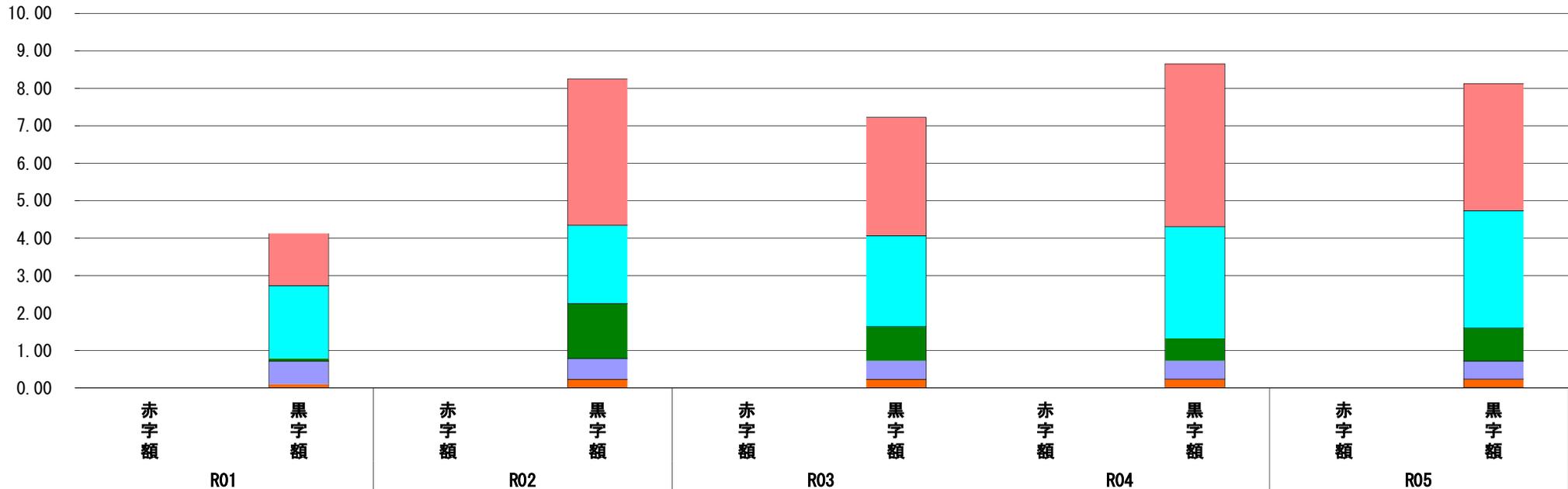
引き続き、持続可能な行財政構造を構築するため、行財政改革に取り組んでいく。

# (8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（都道府県）

令和5年度

鹿児島県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	R01	R02	R03	R04	R05
一般会計		1.39	3.90	3.16	4.35	3.38
鹿児島県病院事業特別会計		1.95	2.09	2.43	2.98	3.14
国民健康保険事業特別会計		0.07	1.48	0.91	0.60	0.88
鹿児島県港湾整備事業特別会計		0.62	0.55	0.50	0.49	0.48
鹿児島県工業用水道事業特別会計		0.10	0.23	0.23	0.24	0.23
公債管理特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
公共土木用地取得先行事業等特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## 分析欄

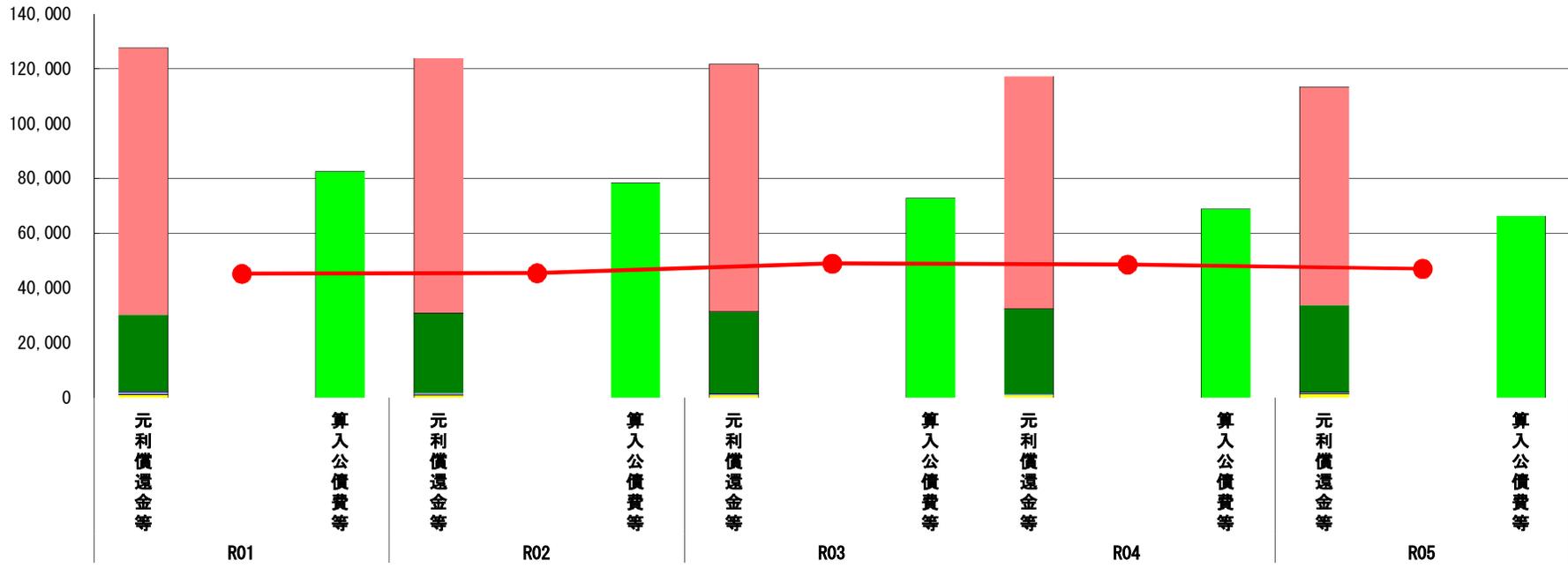
いずれの会計も赤字ではない。  
 一般会計については、行財政改革の取組等により、また病院事業特別会計については、令和4年度に策定した県立病院第三次中期事業計画などに基づく経営改革により黒字となっている。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（都道府県）

令和5年度

鹿児島県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	R01	R02	R03	R04	R05
元利償還金等 (A)	元利償還金		97,458	93,023	90,245	84,947	79,608
	減債基金積立不足算定額※		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		28,038	29,155	29,955	31,071	31,759
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		965	686	612	442	516
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		1,181	904	806	802	1,383
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		82,433	78,299	72,732	68,743	66,270
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		45,209	45,469	48,886	48,519	46,996

**分析欄**

実質公債費比率の分子は、満期一括償還の市場公募債に係る積立分への積立額が増加しているものの、過去に発行した県債の償還の進行により満期一括償還の市場公募債以外の元利償還金が減少していることなどにより、前年度比で減少となった。

※ 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D)/(E))

(参考)

(百万円)

減債基金積立状況等 (注)		年度	R01	R02	R03	R04	R05
減債基金積立状況等 (注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額 (C)		23,492	23,993	19,720	18,667	18,667
	前年度末減債基金残高 (D)		111,157	115,733	120,924	124,714	135,188
	前年度末減債基金積立相当額 (E)		111,146	115,685	120,840	123,739	132,143

**分析欄**

減債基金積立相当額の積立ルールが30年償還で毎年度の積立額を発行額の30分の1として設定し、毎年度、ルールどおりに基金積立を実施しており、積立不足は生じていない。

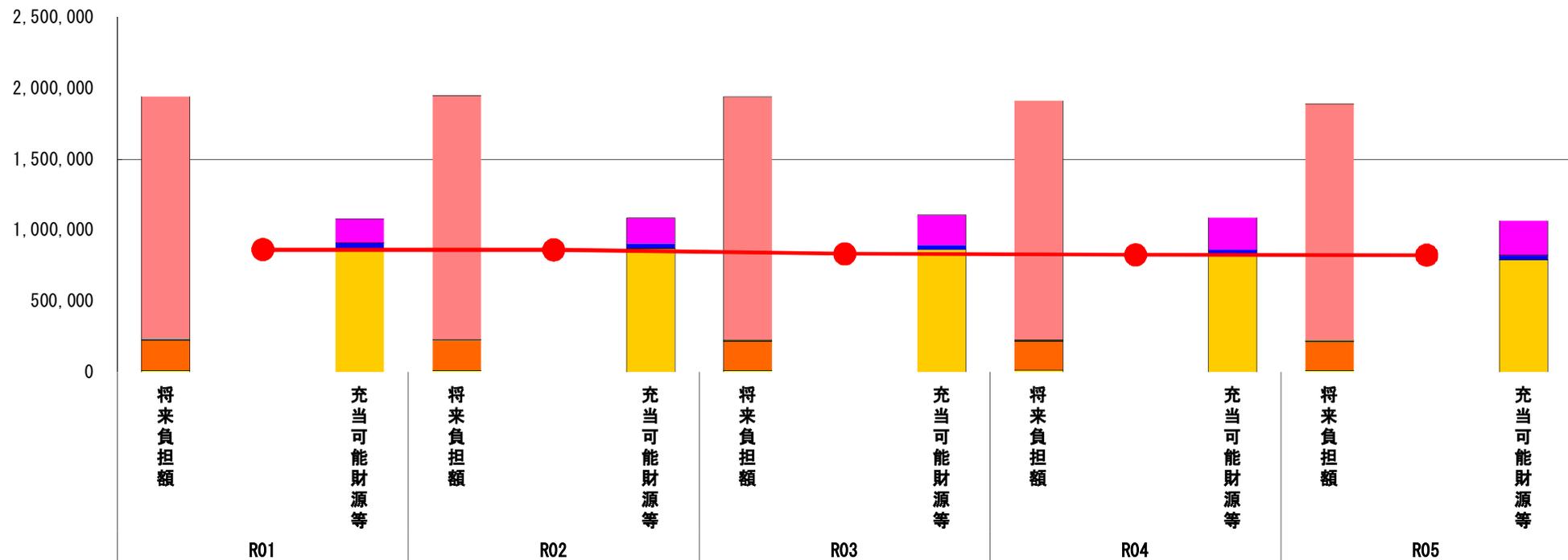
(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。  
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

# (10) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

令和5年度

鹿児島県

(百万円)



(百万円)

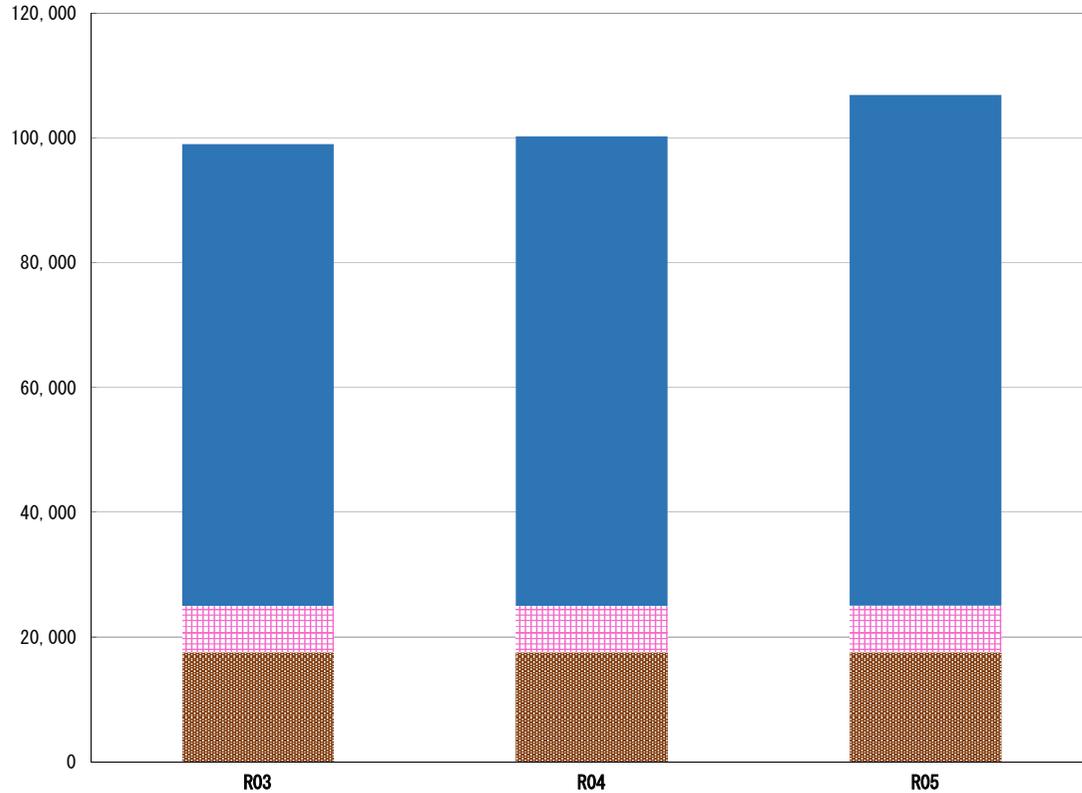
分子の構造		年度	R01	R02	R03	R04	R05
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		1,707,844	1,717,971	1,713,769	1,687,785	1,665,782
	債務負担行為に基づく支出予定額		3,248	2,255	1,624	1,114	783
	公営企業債等繰入見込額		6,035	4,629	5,940	6,436	8,742
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		214,125	213,144	209,850	204,041	204,125
	設立法人等の負債額等負担見込額		9,860	9,293	9,132	13,093	9,060
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		168,623	179,366	213,028	224,723	243,554
	充当可能特定歳入		36,564	35,300	33,270	32,717	31,892
	基準財政需要額算入見込額		873,762	870,818	861,586	829,064	790,057
(A) - (B)	将来負担比率の分子		862,163	861,807	832,430	825,965	822,989

## 分析欄

令和5年度の将来負担比率の分子は、令和4年度と比較して減となったところ。  
 これは、地方債の現在高が減少したことに加え、将来負担額から控除される「地方債の償還額等に充当可能な基金」が増加したこと等によるものである。

# (11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（都道府県）

（百万円）



区分	年度	R03	R04	R05
財政調整基金		17,560	17,562	17,572
減債基金		7,440	7,441	7,445
その他特定目的基金		74,003	75,239	81,855
安心・安全ふるさと創生基金		43,509	43,822	50,700
退職手当基金		-	-	6,076
後期高齢者医療財政安定化基金		5,377	5,377	5,380
県有施設整備積立基金		2,706	2,707	3,627
地域医療介護総合確保基金		5,319	4,683	3,517
基金残高合計		99,003	100,241	106,872

令和5年度

鹿児島県

## 基金全体

（増減理由）

その他特定目的基金の残高が前年度から6,616百万円増加したことなどにより、基金全体としては6,631百万円の増となった。  
 その他特定目的基金については、国民体育大会・全国障害者スポーツ大会施設整備等基金が、当該基金を廃止したことにより6,713百万円の減、地域医療介護総合確保基金が、医療介護総合確保促進法に基づき県が作成した県計画に基づく事業の実施に要する経費に充当したことにより1,166百万円の減となった一方、安心・安全ふるさと創生基金が、歳入確保や徹底した事務の効率化等により生じた財源を用いて積み立てたことにより6,878百万円の増、退職手当基金が、職員の定年年齢の引上げに伴い、退職手当の支給に係る財源を平準化するために積み立てたことにより6,076百万円の増となった。

（今後の方針）

財政調整に活用可能な基金は、本県の標準財政規模に対する基金残高の割合などを勘案すると、必要な規模は確保していると考えられることから、現在と同程度の250億円を下回らない水準で維持する。

また、特定目的基金については、支出が複数年にわたる事業や特定の政策目的のために今後も適切に運用していく。

## 財政調整基金

（増減理由）

前年度実質収支の2分の1を積み立てた上で、増高する傾向にある扶助費等の財源を確保する目的で、ほぼ同額を安心・安全ふるさと創生基金への積み立てのために取り崩した結果、前年度から10百万円増加している。

（今後の方針）

「行財政運営指針」等に基づく歳入・歳出両面にわたる徹底した行財政改革の取組により、平成23年度以降財源不足が生じていないため、近年、同水準で推移している。減債基金を含めた財政調整に活用可能な基金は、本県の標準財政規模に対する基金残高の割合などを勘案すると、必要な規模は確保していると考えられることから、現在と同程度の250億円を下回らない水準で維持する。

## 減債基金

（増減理由）

運用益を積み立てた上で、同規模を維持。

（今後の方針）

行財政運営指針に基づき、財政調整積立基金と合わせて250億円を下回らない水準で維持する。

## その他特定目的基金

（基金の用途）

- 安心・安全ふるさと創生基金  
子どもから高齢者まですべての県民が生涯にわたって安心して安全に暮らすことができる地域社会の創生に向けた施策を推進すること。
- 退職手当基金  
退職手当の支給に要する経費の財源を確保し、将来にわたる財政の健全な運営に資すること。

（増減理由）

- 安心・安全ふるさと創生基金  
歳入確保や徹底した事務の効率化等により生じた財源を用いて積み立てたことにより増となった。
- 退職手当基金  
職員の定年年齢の引上げに伴い、退職手当の支給に係る財源を平準化するために積み立てたことにより増となった。

（今後の方針）

- 安心・安全ふるさと創生基金  
今後も、主な充当対象である社会保障等に要する経費が増加し続けることを踏まえ、基金の財源確保に努めるとともに、当該事業に積極的に活用していく予定。
- 退職手当基金  
職員の定年年齢の引上げに伴い、退職手当の支給額が年度間で大幅に増減することが見込まれることを踏まえ、退職手当の支給に係る財源を平準化するため基金を活用していく予定。